



在学生のワタシ★アクション!
医療とテクノロジーをつなぎ
看護の現場をより良くしたい

特集01 学生の起業支援の取り組み

特集02 学生支援の取り組み

ラボ★アクション!

キャンパスフレンズ・ROPE A DOPE

KENDAI NEWS

ケンダイ広報局

卒業生のワタシ★アクション!



卒業生のワタシ★アクション!

町民の暮らしを支えながら、
復興に向かうまちと共に歩む



アメリカの障害者福祉やジェンダー研究など、吉田先生が手がけた著書の一部。

ラボ★アクション!

先生たちの研究の流儀

地域のシンクタンクであり、多彩な学部を擁する岩手県立大学には、個性豊かな先生がたくさんいる。彼・彼女らがどんな想いを抱き、日々どんな研究に取り組んでいるのか。その横顔に迫ってみたい。

国の「違い」から生まれる課題を可視化して、議論・解決できる社会をつくりたい

障害者福祉やジェンダー(社会的、文化的な性差)の研究に取り組む吉田仁美先生は、実は法学部出身。授業で法律や制度の国際比較を学ぶなかで、特に障害者や女性の「社会的位置づけ」の違いに興味を持ったことが、現在の研究テーマにつながるきっかけだった。

「例えば、アメリカでは障害者も社会のしくみを変えるための積極的に声をあげます。それも非常にロジカルで戦略的。日本との



2016年2月、スイス・ジュネーブで開催された「女性差別撤廃委員会」でのロビー活動の様子。

考え方の違いに衝撃を受けました。こうした「違い」をもっと学びたいと思った吉田先生は、ジェンダーの研究に力を入れている昭和女子大学大学院に進学。ジェンダー視点を含めた障害者制度の国際比較に取り組み、博士課程を修了。教育開発機関の研究員、昭和女子大学の助教を経て、2013年春、岩手県立大学に赴任した。「最初から研究者を目指していたわけではないんです。ただ、研究に没頭するなかで巡ってきたチャンスを決断するにつなげることは意識していました」と吉田先生は振り返る。

今年2月には、国際団体「DPII女性障害者ネットワーク」の依頼で、国連本部で開催された「女性差別撤廃委員会」のロビー活動に参加。日本人が直面している課題に対する原因把握とその解決に向けた立案に利用できる「ジェンダー統計(男女別統計)」

「障害やジェンダーによって生まれる差別や困難は複雑で実状を捉えにくく、問題を感情で訴えがち。そうではなく、中立的・科学的なデータのもとで、障害の有無や男女の別もなく、一緒に議論できるような社会にしていけたら、と思っています」。

今回のロビー活動を通じて「日本人も国際社会の一員であることを改めて実感した」と吉田先生。今後は、「明確な基準のもと、きちんと国際比較ができる統計を整備したい」と話す。

「各国の委員にヒアリングを受けた際に、私が作成したジェンダー統計を紹介し、現状をアピールしました。その結果、国連から日本政府に『ジェンダー統計を作成すること』という勧告を出してもらったことができたんです」。

社会福祉学部 吉田仁美 講師

大船渡市出身。法政大学法学部を卒業後、昭和女子大学大学院生活機構研究科生活機構学専攻に進み、博士後期課程を終了。独立行政法人メディア教育開発センター(現在は廃止)研究員、昭和女子大学人間社会学部助教授を経て2013年岩手県立大学社会福祉学部に着任。障害者福祉やジェンダーの研究に取り組む。子どもの頃から様々なスポーツが好きで、各試合のデータを参照しながら観戦するのが趣味。日本酒党でもあり、岩手の地酒を開拓中。

DATA



幅広く多様な価値観との出会いが、私の視野を広げてくれました



STUDENTS Voice

自分のやりたいことや好きなことを見つけ、その実現に向かって頑張っている学生たちがいる。彼らが何を思い、どんな行動を起こしているのか。一人ひとりの「ワタシアクション!」をご紹介します。

ION-northの活動の一環として、看護学部の先生と学生の対話の場「つながる@ナース座談会」を開催。

医師である父に憧れ、子どもの頃から医師になるのが夢でした。しかし、医大受験の直前に東日本大震災が発生し、私の地元・陸前高田市は壊滅状態に。「今、何ができるか」を自問する日々の中、地域の人に寄り添い、心と身体をケアする看護師の姿に感銘し、「看護師として患者さんを側で支え、生きることの素晴らしさを伝えたい」と思うようになりました。

岩手県立大学看護学部に進学したのは、看護を包括的に学べる大学で、他学部とも交流し、視野を広げたいと考えたから。「新しいことにどんどん挑戦したい」と、プログラミングを勉強し、医療系アプリのコンテストに参加しました。また、大学が実施している「地域創造学習プログラム」でスタディツアーを企画するなど、いろいろな活動をしてきました。2015年8月には、看護学生のつながりをつくる学生団体「ION」の東北支部「ION-north」を設立。東北の看護学生を対象にイベントの企画や情報の発信をしています。

県立大学は学が環境が整っていて、先生も親身になってくれるので、興味のあることとことごとん取り組める場所。その中で私は、病院実習で実感した「仕事量が多く、患者さんと向き合う時間が足りない」という看護現場の課題について解決するために、AI(人工知能)やロボットの導入を研究しています。卒業後も大学院で研究を続け、看護の現場をより良くする仕組みを模索したい。そのためにも、残りの学生生活を全力で学び、楽しみ、いろいろなことを吸収していきたいです。

ワタシ★アクション!

看護学部4年

菅野 智穂 Chiho Kanno

1992年生、陸前高田市出身。高田高校卒業。2013年岩手県立大学看護学部に入学。東北の看護学生団体「ION-north」の主要メンバーを務めるほか、中国の大学との交流事業、ビジネスコンテストへの参加など、幅広く活動。忙しい毎日のストレス解消法は「寝る」「友だちと話して元気をもらう」。趣味はピアノやギターの演奏、読書。



...See You Next Action!

ビジネスの芽を育て 地域で新たな仕事を!

いま、地方創生の流れの中で、若者の地元定着と雇用の創出が叫ばれている。岩手県立大学も教育面から、地域を担う人材の育成を進めているが、その一つに学生による起業を支援する取り組みがある。早い段階から社会の課題について目を向けさせ、学びと研究活動の中でビジネスシーズを育む。その環境づくりと支援の取り組みをご紹介します。



「BlueIPU」代表の古館達也さん(右)と副代表の工藤大希さん(左)。



学生起業家として社会人と仕事をすることは、良い社会勉強になるという。



4月に行われた「ニコニコ超会議2016」では、屋内測位システムをゲームで体感できるデモンストレーションを行った。(写真右 達増拓也岩手県知事)



「BlueIPU」の開発した屋内測位システムに会場客も興味津々。その技術を多くの人々に体感してもらった。



岩手県ブースを担当する岩手県職員との打ち合わせを行う、「BlueIPU」のメンバー。

大学での研究成果を活かし
学生ベンチャー企業が誕生!

平成27年9月、県立大学の学生によるベンチャー企業が立ち上がった。その名は「BlueIPU(ブルイップ)」。メンバーは、代表の古館達也さん(ソフトウェア情報学研究所 博士前期課程2年)と副代表の工藤大希さん(同1年)だ。

起業のきっかけは、2年前の夏に遡る。当時、学部生だった古館さんが中心となり、BLE(Bluetooth Low Energy)ブリーコンを用いた、屋内測位システムの研究開発に着手したことが始まりだった。このシステムは、GPSが利用できない駅や地下街などの屋内において、位置測位やナビゲーションが行える技術。しかし、スマートフォンの機種によって性能差が大きいのが課題で、高精度のシステム開発が求められていた。

古館さんの研究グループに1学年後輩の工藤さんも加わって、県立大学独自の屋内位置測位システムを開発し、大学が研究成果を特許出願。「まだ発展途上の分野で、我々の研究に良い成果が出ていたこともあり、先生から起業を勧められたんです」と古館さんは、経緯を振り返る。

さらに、研究・地域連携本部から大学の保有する知的財産権のライセンスやオフィスの支援を受けつつ、学生ベンチャー企業をスタートさせた。

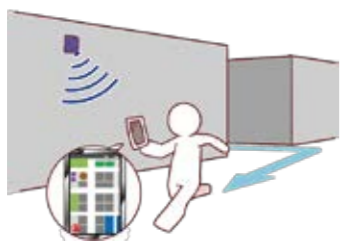
**企業が高く評価する技術力、
ビジネスの可能性は無限大**

「BlueIPU」が起業してまだ1年足らずだが、その技術力の高さに多くの企業から注目が集まっている。

彼らが開発した屋内測位システムは、独自のアルゴリズムによって、課題になっていた機種による性能差を最小限に抑制。駅構内や空港といった複雑な建物内でも高精度な測位を行うことができ、安定的なナビゲーションを実現できる。これは、近年急速に拡大している、あらゆるモノをインターネットで相互に繋ぐIoT(Internet of Things)にも使われる技術で、様々な活用が期待されている。

既に「BlueIPU」は(株)DNPデジタルコムと業務提携し、いくつかの企業と契約。4月には「ニコニコ超会議2016」の岩手県ブースでデモンストレーションを行った。

「自分たちの技術がいろいろな場で使われるのは嬉しいこと。想定外のビジネスも無いんじゃないので、どんどん挑戦していきたいです」と工藤さん。学生ベンチャー企業の今後に大きな期待が寄せられている。



自ら考え、実践できる力が身につく教育と 万全のサポートで国家試験合格率100%を達成!

平成27年度に看護学部を卒業した91名は、看護師国家試験・保健師国家試験・助産師国家試験に全員が合格。開学以来初の快挙を達成した。その理由として上げられるのは、自ら課題を見出し、考え、実践できる力を育む看護学教育と、国家試験に向けたきめ細かなサポート体制。近年の国家試験は、過去問の丸暗記では対応できなくなっており、深い考察を求める問題が増える傾向にある。その中で実学・実践を重視した本学の看護学教育は、主体的に看護に取り組む力を育むため、今回の成果に結びついた。また、3年次から模擬試験を行うなど、早い段階から国家試験対策をスタート。教職員も一丸となって、試験に向けた勉強法の指導を行うなど、学部をあげた丁寧なサポートによって、合格率100%という結果を導き出した。

実習の風景



保健師として岩手県に入職。代表として挨拶する卒業生。



国家試験対策のサポート

3年次

- ◎専門基礎模擬試験
(早期の意識付け、勉強法のフィードバック)

4年次

- ◎国家試験ガイダンス(前年度の傾向把握)
- ◎国家試験模擬試験(保健師2回、助産師2回、看護師3回)
- ◎必修問題模擬試験
- ◎保健師・看護師国家試験対策セミナー(夏期・冬期)

教育研究活動をさらに充実させていくために 「岩手県立大学未来創造基金」を設置しました!



大学の運営を安定化させ、教育研究活動をさらに充実させていくための財源として、平成28年度から「岩手県立大学未来創造基金」を設置。個人、法人から、広く寄附金を募っています。本学へ寄附をされた方については、例えば所得税の税額控除など、新たな優遇措置を受けられる仕組みをつくっていく予定です。地域に根ざす大学として、岩手の未来づくりに貢献する教育研究活動をさらに広げていけるよう、皆さまのご協力をお願いします。

[基金のお問い合わせ先] 岩手県立大学総務室 TEL.019-694-2032 FAX.019-694-2001
[お申込み方法] 本学ホームページ、書面、電話、FAX 又は払込取扱票にてお申込み・払込ください。

ソフトウェア情報学部の取り組み

教育

- ソフトウェア情報学部
 - *キャリア学習科目/グループ内での役割と行動を考え、実行できる力を養う。
 - *起業論/外部講師を招いて講義をしてもらい、仕事への意識・関心を高める。
 - *技術育成/1年次から専門科目を履修し、段階的にソフトウェアの基礎力を身につけられるカリキュラムを組んでいる。
- ソフトウェア情報学研究科
 - *SPA(ソフトウェア・プラクティス・アプローチ)/実社会での問題をテーマとする事例研究。企業の現場に入り、問題解決の実践方法を修得する。
 - *PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)/学生が自主的にチームを作り、目標・開発仕様・工程計画などを設定する制作実践プロジェクト。



学生の起業

環境づくり

- 起業家人材育成
県内の産学官の連携により、地域を担う人材の育成と定着を目指す「ふるさといわて創造プロジェクト」の取り組みの一つ。地域リーダーとの協創体験や起業への挑戦を支援する。
- ベンチャービジネス・起業トレーニングコース(仮称)
ビジネスプランの作成から発表までを行う合宿方式のトレーニングコースを平成28年度から実施。学生のアントレプレナーシップ(起業家精神)の醸成を図る。

起業支援

- 起業ノウハウの支援
知的財産権の活用や特許の申請、事務手続きなど、研究・地域連携本部が中心となってサポート。必要時には外部専門家を活用。
- オフィスの支援
滝沢市と連携し、滝沢市IPU第2イノベーションセンターに「IPUシェアデスク」を設置。起業活動の拠点づくりをサポート。

演習やキャリア教育を重視し、 社会に役立つ実践力を鍛える

学生の起業を支援する取り組みとして、まず教育面からのアプローチをご紹介します。「BuelPU」の二人もソフトウェア情報学部の出身だが、学部では「実学・実践」の理念のもと、実社会の課題を見出し、それを実際に解決できる実践的能力を身につけた人材の養成を行っている。

具体的には、学生自ら「研究、発表、討議」を行う演習科目やソフトウェア技術の習得による、実践力と自主性を育むカリキュラムを編成。また、学年混成グループによってプロジェクトを企画・提案する「プロジェクト演習」など、実際の仕事を想定し、社会人の基礎力を育てる授業に重点を置いている。

また、初年次から仕事に対する意識を高めるために、キャリア学習科目を設けているほか、実務家を外部講師に招いて話を聞く「起業論」も実施。常に「社会で役立つ能力の育成」を重視し、人間教育も含めて総合的に



学年を超えたグループでプロジェクトに取り組む「プロジェクト演習」の授業。

学生に様々な経験の場を提供し、 起業を全面的にバックアップ

教育の一方で力を入れているのが、起業家を育てる環境づくりである。本学では、昨年度、産学官連携で地域を担う人材の育成と定着を目指す「ふるさといわて創造プロジェクト」を開始。その中で「起業家人材育成」を柱の一つとして掲げ、地域リーダーとの協働で事業を興す体験や、新事業に挑戦する活動について支援を行っている。

また、「BuelPU」の起業を契機に鈴木学長は、ベンチャービジネス・起業トレーニングコース(仮称)の実施を決定した。起業への関心を高めるとともに、自ら考え解決していく能力を身につけ、多くの学生に起業にチャレンジしてもらいたいと考えている。

実際に起業する場合には、事務処理や拠点づくりの面から学生起業家をサポート。「BuelPU」の立ち上げの際は、知的財産権の活用について外部専門家の紹介や、滝沢市と連携してIPUシェアデスクを借り受けなどの支援を行った。本学では、教育と環境の両面から、次代を担う起業家の芽を育て、新たな雇用創出に結びつけたいと考えている。

Campus Friends

Vol.8

ROPE A DOPE

県立大学のサークルや同好会、
学生会活動を紹介する「キャンパスフレンズ」。
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。



DATA

ダブルダッチサークル
ROPE A DOPE

平成19年創立、部員数約70名。オープンキャンパス、七夕祭、学祭といった学内イベントを始め、各地の地域イベントにも招かれ、華麗なパフォーマンスを披露している。

[平成27年度実績] Double Dutch Delight North大会出場(オープン部門で優勝)、Double Dutch Delight Japan大会出場、Double Dutch Contest Japan大会出場、Double Dutch Night出場

[練習日] 火曜日・金曜日

[場所] 体育棟サブアリーナ [時間] 18:00~21:00



とっても元気な「ROPE A DOPE」の部員たち。
地域イベントに出る際は学年混合チームを
編成するため、学年を超えて仲が良い。

ダンスを披露したり、児童センターで子どもたちに指導するなど、活動の範囲は幅広い。「目標は、岩手や東北にダブルダッチを広げていくこと。そのために誰もが気軽に体験できる場を増やしていきたい」と山本さん。近い将来、小学校のクラブ活動にダブルダッチが導入される日も来るかもしれない。

活動の柱となるのが、年に4回ほど行われるダブルダッチの競技会。平成27年度には、東北ブロックの「Double Dutch Delight North」大会で見事優勝し、全国大会に出場した。他にも学内外のイベントでパフォーマンスを披露する機会も増えている。

みんなで自分たちの表現を創る、そのプロセスが最高のセッション

ダンスは音楽に合わせて、2本のロープが交差する。ある者はアクロバットな技をきめ、ある者は軽快なステップを踏み、ロープを巧みに操りながら華麗なパフォーマンスを見せる。

若者たちの中で注目を集める「ダブルダッチ」は、2本のロープを使って行う縄跳び。3人以上で行われるが、創造力、テクニック、チームワークなどが問われるスポーツだ。創立11年目の「ROPE A DOPE」は、70名以上の部員が所属する人気サークル。学年毎にいくつかのチームを編成し、曲づくりから振り付けまで、パフォーマンスのすべてを自分たちで手がけるという。

「うちの強みは、構成力と表現力。ストーリーを重視するチームもいれば、テクニックで見せるチームがいたり、いろいろな個性があって面白いですよ」と話すのは、前部長の山本玄輝さん(社会福祉学部4年)。大学で初めてダブルダッチを知り、どんどんなめり込んだという彼は、「アイデアを出し合いながら、みんなで一つのパフォーマンスを作り上げていくのが魅力」という。

学生一人ひとりの悩みに 寄り添うサポートを!

大学生活を送る上で、時には進路や修学、対人関係などで悩むことがある。
このような悩みや困りごとを抱える学生を支援するため、
県立大学では「ピア・サポーター」と「学生サポートサロン」を設置。
一人ひとりの悩みに寄り添ったサポートを展開している。



同じ学生として様々な相談にのる「ピア・サポーター」の相談員。
現在、社会福祉学部を中心に、11名の学生たちが相談員として活動中。



「ピア・サポーター」の研修の様子。
外部講師を招いてレクチャーなども行われている。



学生たちが紙上で悩みを相談し、それに「ピア・サポーター」が回答する「ひとこと相談掲示板(YOUとピア)」。

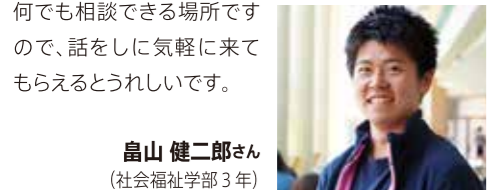
[ピア・サポート相談窓口]

学生による学生相談を行っており、大学生生活の悩みや困ったことの相談、履修相談など、様々な相談に対応している。

[相談窓口開設日]毎週水曜日のお昼休み
[相談場所]メディアセンターA棟3階「風のモント」内

[ピア・サポーターからのメッセージ]

将来、仕事で携わる相談業務に興味があり、ピア・サポーターに参加しました。相談員になるための研修は専門的な学びも多く勉強になりますし、様々な学生の悩みを聞き、解決方法を考えていくことで、自分自身を見つめ直すことができました。ピア・サポートは何でも相談できる場所です



島山 健二郎さん
(社会福祉学部3年)

[学生サポートサロン(アイプラス)]

大学生生活で悩んでいる学生や、心身の障がいや病気を抱えている学生を、専任のカウンセラーや特別支援コーディネーターがサポート。休憩・自習スペースもあるので、食事を取りたい時や休憩したい時にも利用できる。

[場所]メディアセンターB棟2階(地上階)
[時間]月曜日～金曜日9:00～17:00

■学生相談室
進路・修学、対人関係、学生生活、心理相談など、学生生活を送る上での様々な悩みや問題について、専任のカウンセラーや相談員(学部教員)に相談できる。

■障がい学生支援
心身の障がいや病気のため、修学上の配慮が必要な学生に対し、学内環境の整備・調整を行い、教職員と連携しながら必要なサポートを提供している。

[職員からのメッセージ]

一人で抱え込まず、第三者に話すことで気持ちが楽になったり、解決のヒントに繋がったりすることがあるかもしれません。ただ、休憩をするためだけに来ていただいても大丈夫。あまり構えず、気楽に利用していただけたらと思っています。



瀬戸 泰さん
(特別支援コーディネーター)

今 ゆかりさん
(カウンセラー)

授業科目の選択一つをとっても、高校と大学とはそのシステムは大きく違う。まして新入生は、初めての生活環境や人間関係に直面して戸惑うことも多い。そんな入学時の不安や大学生活で生じる悩みをサポートするため、同じ学生が相談に応じる「若手県立大学ピア・サポーター」を設置している。

ピア・サポーターとして活動する相談員は、県立大学に在学する学生たち。相談員になるための研修を受け、大学から委嘱を受けて活動している。といっても堅苦しいものではなく、一緒に解決するというスタンスで、日常生活のささいな悩みなどに対応。毎週水曜日の昼休みに「ピア・サポーター相談窓口」を開設しているほか、紙上で悩みを相談する「ひとこと相談掲示板」も設置している。

ア)などを行っている。また、履修登録時期には、履修の仕方をサポートする「履修相談」も実施。同じ学生だからこそ、気兼ねなく相談できると好評だ。

一人で抱えずにサロンへ相談、
専門職員が解決をサポート

一方、専門職員2名が常駐し、学生をサポートするのが、「学生サポートサロン(アイプラス)」だ。県立大学では、平成11年度に専任のカウンセラーと相談員(学部教員)からなる「学生相談室」を設置。進路や修学、対人関係、心やからだの悩みなど、様々な悩みに



休憩・自習スペースを備えた「学生サポートサロン(アイプラス)」

専任のカウンセラーが寄り添い、一人ひとりの状況に合ったアドバイスやサポートを行っている。また、平成25年度からは特別支援コーディネーターを採用し、心身の障がいや病気のため配慮を必要とする学生に対して、修学面や学内生活に関する相談などに対応。必要な場合には配慮依頼なども行い、多方面から学生を支援している。

平成28年度には、この2つの機能を兼ね備えた「学生サポートサロン(アイプラス)」を新設し、相談のほか、休憩・自習スペースや学生同士の交流スペースなどの場の提供も行い、学生が安心して時間を過ごせる環境を作っている。

「誰しも悩みを抱えることがあると思います。そんなときにちょっと一息ついたり、話をしたり、そんな息抜き場としても利用していただけたらと思います」と瀬戸特別支援コーディネーターは話している。



TAKIZAWA CAMPUS 4.6

希望を胸に752名が新たな大学生活をスタート!

4月5日に宮古短期大学部、4月6日には岩手県立大学、大学院及び盛岡短期大学部の入学式を行いました。今年は岩手県立大学495名、大学院49名、盛岡短期大学部103名、宮古短期大学部105名、合わせて752名が新たな門出を迎えました。式典では、入学生代表から「失敗を恐れず行動する意思をもち、専門分野を一生懸命学びたい」と今後の大学生活への宣誓がなされ、鈴木厚人学長からは「実りある大学生活を過ごしてほしい」との言葉が贈られました。



MIYAKO CAMPUS 4.5



4.23

優秀学生賞授与式を行いました

4月22日に優秀学生賞の授与式を行いました。これは平成27年度の終了時に、各学部各年次で特に優れた学業成績を収めた学生に贈られるものです。鈴木学長から賞状・副賞が授与されるとともに、「予習が大事。予習をすることで、授業への理解度が深まる。たくさん勉強して来年もこの授与式の場に來れるよう頑張してほしい」との言葉が贈られました。

鈴木学長基礎物理学ブレークスルー賞受賞記念植樹

鈴木学長の基礎物理学ブレークスルー賞受賞を記念して植樹式を行いました。学生の成長を見守れるように滝沢キャンパス入り口のアーチの付近に「江戸彼岸(エドヒガン)」を植樹。桜が咲く日が楽しみです!



4.30

人事異動情報

平成28年3月31日付転出・退職

県北広域振興局(前 事務局次長/地域連携室長)	八重樫 一洋
岩手県教育委員会事務局/公益財団法人岩手県文化振興事業団(前 教育研究支援室/室長)	小平 浩
環境生活部/若者女性協働推進室(前 教育研究支援室/主幹)	白鳥 玲子
県南広域振興局/総務部(前 教育研究支援室/主幹)	八重樫 弘喜
商工労働観光部/岩手県立産業技術短期大学校(前 教育研究支援室/主幹)	阿部 恵一
盛岡広域振興局/経営企画部(前 学生支援室/主任主査)	齋藤 比呂彰
保健福祉部/健康国保課(前 地域連携室/地域連携課長)	新沼 司
県土整備部/道路環境課(前 企画室/総務財務課長)	今 俊晴
総務部/岩手県東京事務所(前 企画室/主幹)	藤原 典光
農林水産部/団体指導課(前 企画室/主幹)	館向 暢人
総務部/総務事務センター(前 企画室/主任主査)	豊間根 正明
盛岡広域振興局/県税部(前 企画室/主任主査)	和久石 直人
保健福祉部/長寿社会課(前 企画室/主事)	刈敷山 義則
商工労働観光部/岩手県立産業技術短期大学校(前 宮古事務局/事務局長)	高橋 雅人
沿岸広域振興局/保健福祉環境部/宮古保健福祉環境センター(前 宮古事務局/主事)	倉部 将裕
退職(前 教育研究支援室/主事)	須藤 淳美
退職(前 学生支援室/副参事兼学生支援課長)	細川 仁
退職(前 宮古事務局/主幹)	三浦 満
退職(前 宮古事務局/養護専門員)	田中 麻美子

平成28年4月1日付転入・採用

事務局次長兼企画室長(前 政策地域部/政策推進室)	森 達也
教育支援室/室長(前 秘書広報室/秘書課)	藤本 さとえ
教育支援室/主幹(前 総務部/人事課(陸前高田市派遣))	熊谷 和典
教育支援室/主任主査(前 環境生活部/若者女性協働推進室)	桜田 康子
学生支援室/主査(前 政策地域部/調査統計課)	小笠原 和夫
研究・地域連携室/室長(前 県土整備部/道路環境課)	佐藤 博行
研究・地域連携室/研究・地域連携課長(前 商工労働観光部/産業経済交流課)	土井 英明
研究・地域連携室/主幹(前 農林水産部/団体指導課)	桂木 加代子
企画室/主幹(前 商工労働観光部/雇用対策・労働室)	藤根 由紀子
総務室/副参事兼総務財務課長(前 農林水産部/岩手県農業研究センター)	高橋 啓三
総務室/主任主査(前 盛岡広域振興局/保健福祉環境部)	伊東 文代
総務室/主任主査(前 岩手県議会事務局/総務課)	谷藤 雅代
総務室/主任主査(前 岩手県議会事務局/総務課)	藤平 貴一
総務室/主事(前 県南広域振興局/経営企画部)	白沢 明美
宮古事務局/事務局長(前 農林水産部/農林水産企画室)	瀧澤 信一
宮古事務局/主任主査(前 沿岸広域振興局/土木部宮古土木センター)	中村 栄一
宮古事務局/主事(前 県南広域振興局/保健福祉環境部)	菊地 沙弥香
教育支援室/主査(新採用)	千代谷 晶子
教育支援室/主事(新採用)	山本 亜胡

熊本地震の活動報告で連携の重要性を語る

5月11日に熊本地震でのボランティア活動の報告を行いました。県立大学からは1名の教員と2名の学生が4月29日から5月7日まで熊本県へ訪れ、ニーズの聞き取りや現地のボランティアセンターの運営の支援にあたりました。東日本大震災の際、県立大学はボランティアセンターを中心にボランティアに訪れる方々の受入拠点を担い、今もそのノウハウが引き継がれています。そして、東日本大震災以降、他大学との交流も進み、今回の熊本地震では熊本県立大学と情報を交換しながら現地の支援を行っています。報告会では、現地での経験を振り返りながら、地域・学生・大学間の連携の重要性を伝えました。また、大学内では、少しでも被災した方々の力になればと学生が募金活動を行いました。被災された地域の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



今年も白熱した体育祭を開催!

第8回体育祭を5月14日に開催しました。今年は晴天に恵まれ、とても暑い体育祭となりました。今年も滝沢キャンパス及び宮古キャンパスの学生、そして、教職員が正々堂々戦いました。競技は玉入れから始まり、長縄跳び、綱引きを行い、最後に今年が初の競技種目となったムカデ競争でチームワークを競いました。白熱した戦いの末、優勝したのは、総合政策学部・看護学部の合同チーム。汗を流した後は学食で交流会も行われ、学部を超えて交流を深めました。



選手団サポートボランティアの研修を開始!

第16回全国障害者スポーツ大会(2016希望郷いわて大会)の選手団サポートボランティアの研修を開始。本学からは90名もの学生が参加します。今回が第1回目のオリエンテーションで全4回行います。選手の皆さんのサポートをしっかりできるよう準備を進めていきます!!

平成28年度岩手県立大学公開講座(滝沢キャンパス講座)

岩手県立大学では、開学以来、大学の教育・研究の成果を広く還元し、県民の皆様の多様な学習ニーズに応えるとともに、地域社会の教育・学術・文化の発展に貢献することを目的に、毎年公開講座を開講し、お蔭で延べ3万人を超える県民の皆様にご受講いただいております。

今年度はテーマを「いわての未来を考える」とし、近年多く報道されている話題等に関連し、学内外の講師陣から、専門的な立場でお話ししていただきます。世界の未来、日本の未来、そして岩手の未来について、より深く知り、考える機会としていただければ幸いです。どなたでも受講いただけますので、御家族、お友達等お誘い合せて、またお一人でも、お気軽に御参加ください。

【 テー マ 】 「いわての未来を考える」
 【 開 催 期 間 】 7月23日～8月6日(土曜日・全5回)
 【 受 講 料 】 受講回数に関わらず一律1,000円 ※高校生以下の方は無料です。
 【 開 催 場 所 】 岩手県立大学滝沢キャンパス(滝沢市菓子152-52)
 【お問合せ・お申込】 岩手県立大学研究・地域連携室 TEL.019-694-3330
 E-mail:koukaikouza@mli.iwate-pu.ac.jp

- 7月23日(土) ■ 講座 1 13:15～15:15 地方創生の時代と岩手県立大学 講師:鈴木厚人(岩手県立大学・学長)
- 7月30日(土) ■ 講座 2 10:00～12:00 「豊かな生」を支える関わりを考える 講師:渡辺幸枝(看護学部・講師)
- 講座 3 13:00～15:00 岩手のホームスパンの昔、今、そして未来 講師:菊池直子(盛岡短期大学部・教授)
- 8月6日(土) ■ 講座 4 10:00～12:00 南極から地球の未来を考える 講師:福西浩 氏(東北大学・名誉教授)
- 講座 5 13:00～15:00 地域と連携した岩手発の先進的なICT活用 講師:堀川三好(ソフトウェア情報学部・准教授)

●全ての講座に手話通訳・要訳筆記通訳をご用意します。 ※講師・タイトルは変更となる場合がありますのでご了承ください。

This is My Action!

OB&OG Voice

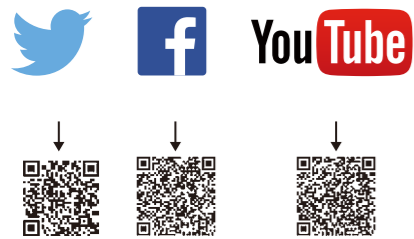
大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。

編集後記

今回は、大学で学ぶ意義と熱意を逆に教わる取材となりました。看護学部で学ぶ菅野さん、宮古短期大学部を卒業して大槌町役場で働く芳賀さんともに入学時からしっかりと目標を立て、それに向かって邁進している姿が輝かしかったです。また、特集1の古館さんと工藤さんも自身の研究を活かし、起業につなげ、世界を広げている姿が頼もしく感じました。今回の号ではこのパワーをぜひお伝えしたいです。そして、看護学部では、看護師・保健師・助産師国家試験において受験した全学生が合格するという快挙を達成しました。言葉では簡単ですが、取材時には教員と学生の二人三脚の受験対策と教員の丁寧な指導が話の中から垣間見られました。(企画室・薬田)

岩手県立大学のホットな情報発信中!

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などをリアルタイムに発信するためTwitter公式アカウント【@IPU_official】、Facebook、YouTubeで情報提供を行なっています。是非、ご覧ください。



広報誌【IPUアクション!】へのご意見・ご感想や、広報に関する皆様のご意見をお聞かせください。(下記の企画室のあて先までお寄せください)



〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 TEL.019-694-2005 FAX.019-694-2001
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/ [e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp

- [看護学部]
- [社会福祉学部]
- [ソフトウェア情報学部]
- [総合政策学部]
- [盛岡短期大学部]
- [宮古短期大学部]



なすべき仕事に全力で取り組み、
町民の心と暮らしに寄り添っていく

芳賀さんが担当しているのは、介護保険に関わる業務。やり取りを通じて町民からお礼を言われることもあり、そのひと言が励みになっているという。

自分もふるさとのまちづくりに関わりたい。私がそう思うようになったのは、高校一年生の時に発生した震災がきっかけでした。地元・大槌町は甚大な被害を受け、実家も全壊。それまでは調理師を目指していましたが、役場職員がまちのために働く姿に触れ、公務員に憧れを抱くようになったんです。高卒で役場に就職する道もありましたが、自分の視野を広げるためにも、大槌を離れていろいろなことを吸収したいと考え、宮古短期大学部へ。復興の経過を肌で感じられる場所で、学ぶ道を選びました。

大学では、観光学を専攻するゼミに入り、地域資源を活かした観光振興について研究。また、コミュニケーション力を磨くためにボランティアサークルに参加し、様々な世代の人と協力しながらイベントの運営や奉仕活動などに携わりました。

卒業後は、かねてから希望していた大槌町役場に就職。民生部長寿課の職員として、介護保険に関わる業務を担当しています。入庁前はまちづくりに携わりたいという思いが強かったのですが、長寿課で町民の皆さんに接するうち、日々の暮らしや心の痛みを知ることこそ、一番大事なことだと思うようになりました。特に私が担当する介護保険の業務は、その人の生活を支える仕事。役場職員としてやるべき仕事をしっかり行い、一つひとつ丁寧に対応することが、町民の皆さんを支えることにつながっています。

役場に入ってまだ2年目ですが、町民と協力しながら地域コミュニティを活性化していくのが今後の目標。大槌の復興に少しでも役立てるよう頑張りたいと思っています。

ワタシ★アクション!

芳賀 諒太 Ryota Haga
大槌町役場

1995年生、岩手県大槌町出身。大槌高校卒業。中・高・大学と卓球を続け、吉里吉里中学校時代は、部長としてチームの地区大会団体戦9連覇に貢献。大学時代は学生赤十字奉仕団・JRCに所属し、地域住民との交流や復興支援活動、イベント運営などに積極的に参加した。最近の趣味は、料理とガーデニング。自宅の畑を耕し、花や野菜を育てるのが楽しいという。

...See You Next Action!

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーです。 (*´▽`*)

ケンダイ★広報局

学生★企画



サークルちゃんねる

サークル活動は青春!!テーマを決めて、それぞれサークル活動をしている県立大生に突撃!!! もっと熱くなれよっっ!!! (///∩〇〇)ノオオオオ!!

Q1→サークル紹介 Q2→サークルに入ったきっかけ

武道館デビュー?!

少林寺拳法部



代表 岩瀬 裕史 さん

A1.創部7年目です。学年関係なくアットホームな雰囲気の中で楽しく練習しています。
A2.新しいことをしようと入部を決意しました。また、技の修練方法が理論的で目に見えて上達していけるところが良かったです。

後輩に指導する中で皆にもっと上手くなってほしいと考えるようになり、皆の前に立って指導する主将という立場になることを考えました。

さっくら~ちよいわやっせ さんさ踊り実行委員会

代表 佐藤 琴香 さん

A1.多くの人へ感謝や感動をさんさを通して伝えることができるように「伝えるさんさ」というテーマのもと日々の練習を頑張っています。
A2.新入生歓迎会で、先輩のさんさ踊りを見ることがきっかけでした。自分もあの中に入って踊りたいと思い、さんさ踊りを始めました。

さんさが大好きで、一生懸命なところですが、また、それぞれ個性が豊かで、笑顔もとても素敵です!

カッキーズ!(「はいチーズ!」風) カッキー's



代表 畑 佳波 さん

A1.岩手県山田町を毎月1回訪れてボランティア活動を行っています。また、沿岸の高校を訪問して進路相談も行っています。
A2.高校のときに、カッキー'Sが行っている進路相談に参加して、県大に入学したらカッキー'Sに入ろうと考えていました。

山田町の特産品である「牡蠣」が名前由来です。(牡蠣'S)カッキー'S ポーズは貝殻がパカッと開いた時をイメージしています。(笑)

マリンバじゃないよ マンドリンサークル

代表 望月 莉里 さん

A1.岩手大学に練習に行くほどマンドリンが大好きな先輩がいて、マンドリン経験者の後輩達と一緒に創設しました。
A2.元々高校でホルンを吹いていました。大学では変わった楽器をやりたい気持ちと弦楽器への憧れもある中、きれいな音色のマンドリンに出会い、入りました。

今年は新入生が5人入ったので演奏をレベルアップさせて、たくさんのイベントに参加したいです。



[Twitterアカウント]@IPUCA_ 岩手県立大学キャンパスアテンダント公式アカウント!! ※ツイート内容は大学の公式見解ではありません。大学生目線CAメンバーがつぶやきます!!ハッシュタグは#ipu_ca